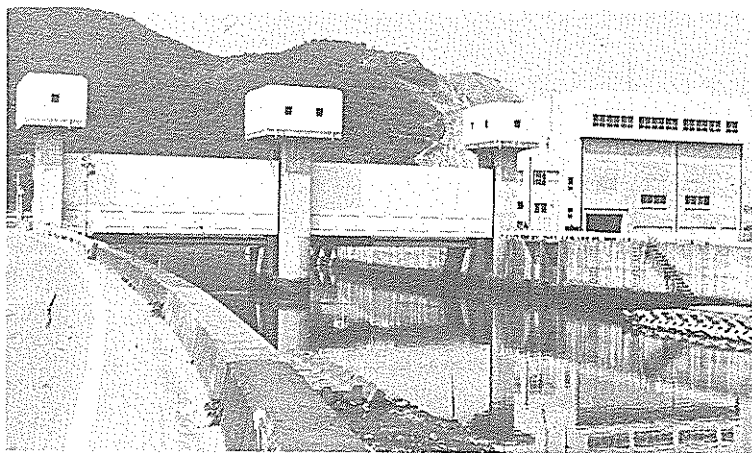


下田川に排水ポンプ完成

稲生地区、高潮の心配なくなる



下田川に完成した高潮対策の排水機場

下田川はん濫で、稲生地区は過去いくたび家屋の浸水や農作物に被害を受けたことだろう。県が高潮対策事業として昭和五十三年度から進めていた、稲生の下田川排水機場がこのたび完成、八月十七日に県、市、それに地元の稲

生土地改良区などの関係者約五十人が出席して完工式が行われた。

完成した排水機場は、総工費約二十三億円をかけ、三基の排水ポンプ、防潮水門二門、管理棟などが設置されています。

台風や豪雨で、浦戸湾が高潮時には水の逆流を防ぐ防潮水門がお

ろされ、毎秒七・五立方メートルと一・五立方メートルの排水ポンプが上流の水をくみ出す仕組みになっており、これらはすべてボタン一つで動くコンピュータシステムになっています。

下田川は、物部川の野中兼山ゆかりの「山田殿」に端を発し、市



通水のスイッチを入れる県、市の関係者

内の中央部穀倉地帯を通り、稲生地区を流れて浦戸湾に注ぐ河川で、昔から農業用水として重要な役割を果たしてきました。

しかし、稲生地区はひとたび多く雨が降ると下田川がはん濫して家屋の浸水はもとより、収穫前の水稲や野菜などが多大の被害を受け、市内でも有数の水害常襲地帯といわれていただけに、この排水機場の完成は待ちに待ったものといえます。

台風十三号の余波が残る午後三時半ごろ通水のスイッチが押されると、さっそく威力を発揮し、出席した人々はかたずをのんで水門をじつと見ながら、秋の災害シーズンを前にこの施設が完成したことに大きな喜びと期待をふくらませていました。



台風10号で下田川がはん濫、浸水した稲生地区(昭45・8・21)